

新たな行財政改革の方向性等

【背景】

- ・人口減少、少子高齢化、グローバル化
- ・次期総合計画への取り組み
- ・国の地方創生(まち・ひと・しごと)の動き
- ・新県庁舎への移転
- ・厳しい財政状況と「さらなる収支改善対策」への取組

【県に求められるもの】

- 組織の総力を挙げて業務を実施できる仕組みづくり
- ・従来の制度・仕組みの見直しと新たな制度・仕組みの構築
 - ・高い意識で業務を実現できる人材の育成
 - ・県政の将来に向けて持続可能かつ安定的な行財政運営

各職員へのスピリットの浸透に加え、プロセス改革が必要

新たな行財政改革への取組

政策形成

事業執行

人材育成

行財政運営

◎業務プロセスの見直し

- ・従来の手法・仕組み・システムの徹底した省力化
→何を省き、何に力を入れていくのかを明確化
- ・意思決定の迅速化、ICTの積極的活用 など

◎より効果的・効率的に業務を実施する人材育成

◎県政の将来に向けて持続可能かつ安定的な行財政運営

プロセス改革により組織全体にスピリットを浸透、実践

目指すべき姿

県庁の組織全体でスピリットを体現

「Catch」
県民、市町等との積極的な対話と協働

「Change」
意識改革
能力向上
組織見直し

「Challenge」
新しい発想による実践・挑戦

「Cost」
行政の効率化と健全財政

「Chief」 地域経営の責任者として具体的な成果を県民に還元

◎検討をお願いしたい事項

県を取り巻く環境変化に対応し、「次期総合計画」(平成28年度からの県政運営の指針となる計画)の着実な実現を図って行くためには、さらなる行財政改革を行う必要があり、幅広い見地から皆様にご意見をいただき、新しい行財政改革プランの策定に関して検討をお願いいたします。

○新たな行財政改革として考えられる取組

1 業務プロセスの見直し

- ① 仕組み・システムの見直し
- ② 内部事務の見直し
- ③ 業務の削減と積極的な外部化
- ④ コミュニケーションの強化
- ⑤ ICTの積極的な活用
- ⑥ 自ら考え主体的に提案する仕組みづくり

2 より効果的・効率的に業務を実施する人材育成

- ① 多様な人材確保
- ② チャレンジする人材の育成
- ③ 意識改革と専門性の向上
- ④ 魅力的で働きやすい職場環境づくり

3 県政の将来に向けて持続可能かつ安定的な行財政運営

- ① 財産の効果的活用
- ② 組織体制の最適化
- ③ 歳出の「効率化」・「選択と集中」
- ④ 歳入の確保

◎新たな行財政改革に関する懇話会の進め方

各回の議論を踏まえつつ、大きな流れとしては、以下の流れで進める。

懇話会	日付	議論のテーマ	主な議論の内容
第1回	7月22日	新たな行財政改革の方向性	○これまでの行革の取組 ○新たな行財政改革の方向性
第2回	8月21日	人材育成	○人材育成の現状・課題・方向性 ・現行人材育成プログラムの進捗を踏まえた検討
第3回	9月1日	業務プロセス①	○業務プロセスの現状・課題・方向性 ・庁内プロセス分析の結果を踏まえた検討 ・市町連携や県民協働
第4回	9月中旬	業務プロセス②、行財政運営①	○業務プロセスの現状・課題・方向性(続) ○行財政運営の現状・課題・方向性 ・中期財政見通しを踏まえた議論、業務の外部化
	10月上旬	個別ヒアリング	○行財政改革に関する個別委員への意見聴取
第5回	10月中旬	行財政運営②	○行財政運営の現状・課題・方向性 ・財産活用と歳入確保
第6回	10月下旬	個別論点	○個別論点に関する検討 ・これまでの議論で出てきた個別論点への対応について、必要に応じて議論
第7回	11月上旬	議論のまとめ	○議論のまとめ ・これまでの議論を踏まえた県の対応の方向性について意見をいただく